

BIM / CIM · DX推進

宮繕WG

目標

- 営繕事業を効率化し、すべての関係者の働き方改革を推進
- BIMの活用を促進し、他の公共発注機関へ情報提供することで普及を図る

取組内容

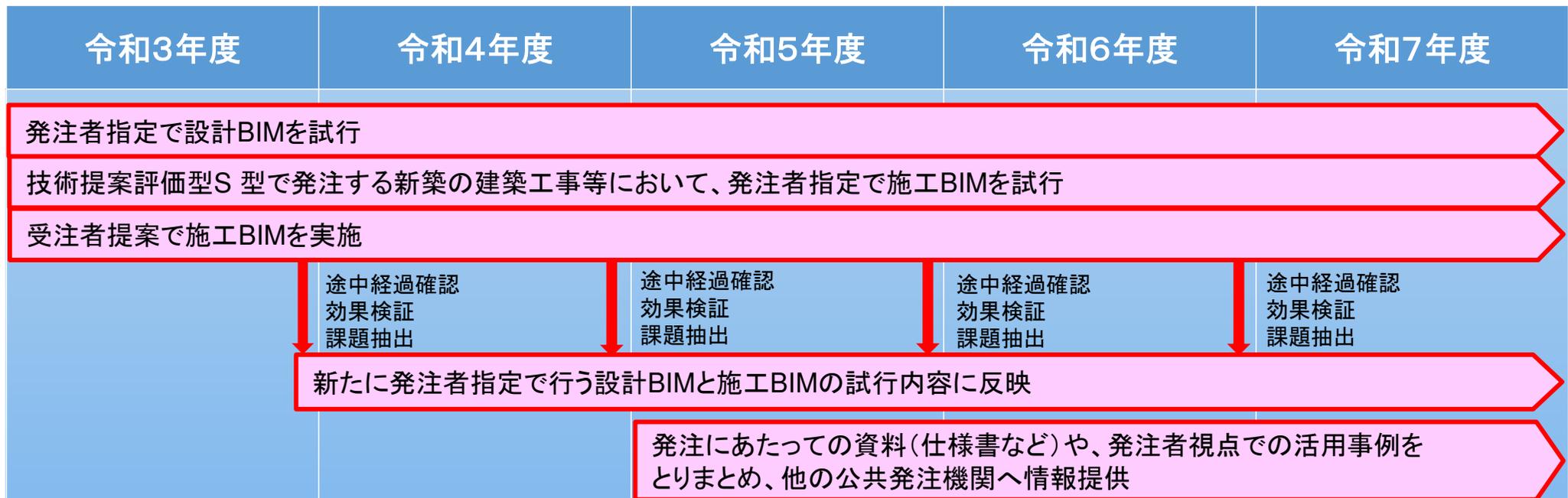
- 発注者指定で設計BIMと施工BIMを試行
- 試行対象としなかった場合であっても、受注者から提案があれば積極的に採用

●発注者が試行内容を指定して設計BIMを実施

＜例＞汎用的な部材データの活用、施工段階へ引き継ぐための工夫等に関する報告など

●発注者が試行内容、試行部位を指定して施工BIMを実施

＜例＞仮設計画、デジタルモックアップ（見本施工）、他工事との干渉チェックなどを関係者の合意形成などに使う



※今後の予定は現時点での想定であり、現地実証等の進捗状況により、変更等が生じる場合があります。

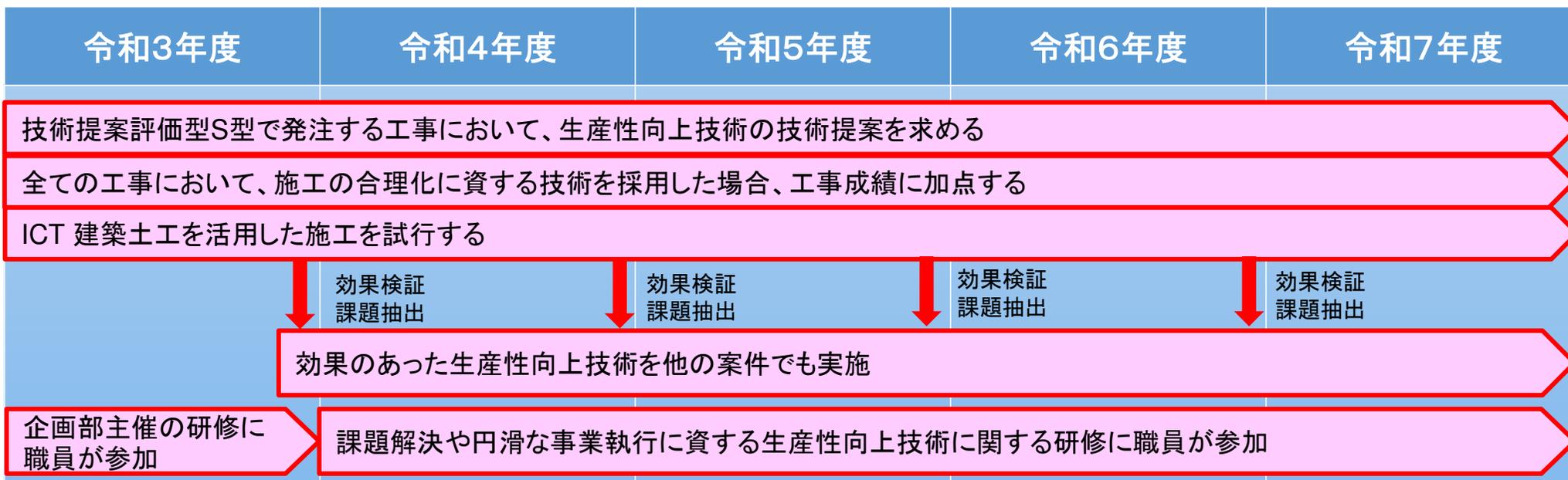
目標

- 営繕事業を効率化し、すべての関係者の働き方改革を推進

取組内容

- 技術提案評価型S型で発注する工事において、生産性向上技術※の技術提案を求める
- 全ての工事において、施工の合理化に資する技術を採用した場合、工事成績に加点
- ICT 建築土工を活用した施工を試行
- 生産性向上技術に関する職員研修

※ 品質及び安全性を確保しつつ、合理的な施工方法、施工管理方法を採用することにより、現場の作業時間を短縮する等、生産性を向上させる技術（プレキャスト化、プレハブ化、配管等のユニット化、自動化施工（ICT建築土工、床コンクリート直均し仕上げロボット等）、BIM の活用等）



※今後の予定は現時点での想定であり、現地実証等の進捗状況により、変更等が生じる場合があります。

目標

- 営繕事業を効率化し、すべての関係者の働き方改革を推進
- 情報共有、打合せ等の更なる円滑化を図る

取組内容

- 情報共有システムを原則として発注者指定により活用
- 監督職員の業務の一部に遠隔臨場を試行
- ウェブ会議、チャット等を積極的に活用し、一部の業務をリモートで行う

Before

これまで

- 工事関係書類を紙で確認
- 受注者と監督職員が現場で立会い、協議、検査、調整

After

これからは

- 工事関係書類を情報共有システム等で確認
- ウェアラブルカメラ等による映像・音声の双方向通信を使用して、遠隔臨場



情報共有システムのイメージ

情報の一元管理



令和3年度

令和4年度

令和5年度

令和6年度

令和7年度

小規模な工事等を除き
情報共有システムを
活用、検証

情報共有システムの
活用対象を拡大

情報共有システムの活用状況と遠隔臨場の試行結果を検証し、
組織内で情報共有することで、監督業務の更なる効率化を図る

遠隔臨場を試行・検証

ウェブ会議、チャット等の活用事例を組織内で情報共有することで、効率化を図る